

千里ニュータウンを見学しました

1月17日(木)、「洛西ニュータウン創生推進委員会」では、今後の委員会・部会の取組の参考とするため、委員、部会委員など31名が参加し、千里ニュータウンの見学会を実施しました。

日本で初めて本格的なニュータウンとして建設された千里ニュータウンは、昭和37年のまちづくりからすでに45年以上が経過し、少子・長寿化の進行や住宅の老朽化など様々な課題に直面しています。

見学会では、まちづくりの第一線で活動されてきた方々のお話をうかがい、意見交換を行うとともに、建替えの対象となる集合住宅や地域住民の交流拠点などを訪れ、まちづくりを進めていくうえでの貴重な体験を得ることができました。



千里ニュータウンのまちづくりについて、佐竹台地区連合自治会長の谷川一二さんからお話を聞きました。



公園の竹を守り育てる取組を進めている「千里竹の会」の皆さんから説明を受けました。



住民の交流の場として親しまれている「ひがしまち街角広場」を訪れました。

【参加者の感想から】

- ・まちづくりを進めるにあたっては、時代や環境の変化に対して、年々進化する取組が必要であることがわかった。
- ・洛西ニュータウンのサブセンターにも「ひがしまち街角広場」のような多様な世代の集う場所を作りたい。
- ・建替えについても近い将来の課題であることを実感した。
- ・「千里住まいの学校」のような住居紹介等のシステムは洛西ニュータウンでもニーズが高いのではないかと。
- ・これからのまちづくりは、住民提案型による話し合いが大切という谷川会長の話が印象深かった。
- ・15年先行して開発されたとはいえ、ニュータウンの抱える課題は共通である。種々の取組は非常に参考になり勉強になった。